

富士運輸 成田で構内営業承認取得 来月 北部―南部間の輸送開始

富士運輸はこのほど、成田国際空港会社(NAA)から同空港の構内営業承認を取得した。事業内容は航空機サービス業(グラウンドサービス)で、北部貨物地区と南部貨物地区との間の貨物輸送業務などを行う。

来月、貨物上屋を北部貨物地区から南部貨物地区に移転・集約する日本貨物航空(NCA)の機持ち輸送を富士運輸が受託しており、同輸送を手がけるためにNAAに事業申請していた。事業開始は来月6日。富士運輸は成田空港関連事業に対応する拠点として、空港外の成田支店(千葉県富里市)と、空港内の成田オペレーションセンター(第2貨物代理店ビル)を構えている。両拠点が連動して新規事業に取り組み、1日2台の車両が制限区域内、制限区域外の輸送事業を手がける。大型車(10ト)が制限区域外、4ト車が制限区域内の輸送事業を行う。

グドン氏は「ニューヨークは、ジャストインタイム型の経済に欠かせない配達トラックからの排出を削減するこの取り組みにより、よりクリーンな空気を効率的な貨物輸送を享受できる」と述べた。

DHLは同プログラムで過去数年にわたり、ブラジルメキシコ、コロンビア、パラグアイなどの南米諸国に加え、欧州やアジア諸国などで配達車両をアップグレードしてきた。DHLは10年(10年1月～12月)にス貨物を含め、「GoGreen」の対象として全世界で10億件以上を取り扱った。

富士運輸は「構内営業承認を取得することで、成田空港内における輸送の対応能力が格段にアップする。最適な輸送サービスを提供

構内営業承認取得を受けて、天井にナンバーが記された成田支店の車両



することが可能だ」としている。

富士運輸成田支店の体制は現在、車両90台、スタッフは空港内を含め100人強。24時間年中無休の営業(空港間のO/T(保稅輸送)をはじめとする航空貨物関連輸送、郵便輸送、大手メーカーの専属便、定期路線運行便事業を手がけている。成田空港を発着するO/Tについては中部空港や関西空港、羽田空港との間を行き交う貨物を中心に事業展開している。